

# リーダーからのメールです

## 社会貢献や地産地消活かし 端玉やコンビニもテーマに

景品関連促進PTリーダー 佐々木 敏栄



景品関連促進PTで司会進行する佐々木リーダー



ル専用PB景品、社会貢献につながる商品、地産地消を活かした商品等を検討しています。これらの検討にあたり、現状の売れ筋景品を調査しました。その結果は非常に難しい現実を再認識させられるものでした。だからこそ「何とかしなければ」と思っています。

PTでは、都道府県別の端玉金額を調査しました。その結果、端玉金額100円は12県、200円は29県、合わせて41県が200円以下です。200円以下を無くせねば換金を目的とした遊技客の景品持ち帰りの動きが増えると考えています。大阪の端玉金額が500円にアップされたことで福井副会長のホテルでコンビニ商品が景品として交換していただきやすい状況にあるようです。

昨年6月に「店外オンラインプロジェクトチーム(PT)」が発足しました。これまでの活動と検討経緯を報告します。

PT発足当初、コンビニエンスストアとの提携により「店外オンライン(貯玉からの景品交換)」実現に向けて検討をスタートしましたが、法的な壁があり当面の実現性が難しいことから、9月から名称を「景品関連促進プロジェクトチーム」に変更しました。

す。

現在の検討テーマは3つあります。

一つは遊技客に喜んでもらえる魅力ある景品についてです。

コンビニ商品のホール景品への導入試験を実施している他、ホー

これにより、現行法の枠内で景品の品揃え充実を図り、更なる景品持ち帰りを促進する環境整備に向けて検討を重ねています。名称変更後のPTでの議論は、世の中の動きを考えつつ、パチンコ業界の現状に危機感を持つて進めながら、なによりも業界外の人が後押ししてくれる状況を私達が作る必要があると考えています。

二つめは、コンビニエンスストア等(流通業)とコラボレーションするための条件をどうクリアするかの課題です。

ファミリーマート本社の開発担当者との面談でビジネスが成立する商品取扱量が見込めればコラボの可能性はあるとのこと

でした。これを受けて福井副会長の大坂のホール4店舗で、専用の

います。

方のご意見・ご協力をお待ちして

「景品関連促進PT」では、景品持ち帰り促進に賛同していただける